



アクション① 斜面崩壊防止・植生復元



7合目付近で実施した土のう筋工試験施工時の状況(2023年10月18日)



試験施工1年後の状況(2024年10月11日)土のう筋工の効果で斜面が安定し、植生が回復してきています。

裸地化や土砂の流出が進む南側斜面において、斜面崩壊防止や植生回復を進めるため、連携企業の協力により、ドローンによる資材運搬を活用しながら、「土のう筋工」等の試験施工を行い、これらの成果を踏まえ、効果的な復旧対策の実施に向けた「伊吹山復旧基本構想」の調査委託を行っています。



アクション② 山頂・3合目の植生保全



保護団体による3合目の保全作業



地元団体による保護柵設置



地域住民や保護団体の尽力により
復元した山頂西側のお花畑

3合目および山頂の貴重な草原群落や希少な植物を守るため、地元団体や自然保護団体が尽力されています。市では、その活動のサポートや大型金属柵の設置を進めています。



アクション③ ニホンジカの捕獲強化

ニホンジカの個体数を減らすため、大型の囲いわな等により2023年度は目標数である200頭以上を捕獲しました。今後も適正な生息数を目指し、隣接する岐阜県揖斐川町や関ヶ原町とも連携して捕獲の取り組みを進めていく予定です。

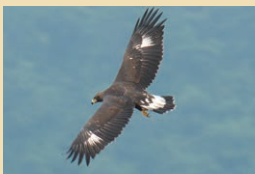


6合目に設置したシカ捕獲のための
大型囲いわな



伊吹山山頂に設置した囲いわな

貴重な生態系を守る 希少鳥獣イヌワシの保護



イヌワシの幼鳥(撮影:須藤一成)



侵入防止柵設置作業の様子

伊吹山には国の天然記念物であるイヌワシが生息しています。イヌワシの生息は豊かな環境の現れであり、自然界の生態系バランスを示すバロメーターとも言われています。しかし、近年餌となる小動物の減少や、人が巣に近づきすぎること等により、イヌワシにとって子育てしにくい環境となっています。

そこで、市や県、地元団体が協力し、今年イヌワシが営巣しヒナが誕生したドライブウェイ頂上付近に侵入防止柵を設置しました。多くの方の協力で、ヒナは無事巣立つことができました。

伊吹山を取り巻く環境の変化や、その根本的な課題である地球温暖化を止めるためには、
私たち一人ひとりにできることの積み重ねが大切です。

動物・植物・人の最適なバランスの保持を目指し、かけがえのない伊吹山の自然環境を守るため、
今一度、自分達にできることを考え、実践してみませんか？



特集3 取り戻したい光景 緑あふれる伊吹山

伊吹山植生復元プロジェクト

～目指すのは動物・植物・人の最適なバランス～



伊吹山テレビでも
紹介しています！

滋賀県の最高峰伊吹山。山の品格や歴史・個性を兼ね備え、「日本百名山」にも選定されており、その特異な地理的・気象的な立地条件から、貴重な植物の宝庫であり、多くの希少植物や、イヌワシをはじめとする多種多様な生物が生息しています。また、伊吹山から流れ出る湧き水は、河川となって琵琶湖へ注がれ、多くの人の生活を支えています。

そんなかけがえのない伊吹山が今、次世代に引き継いでいけるかどうかの帰路に立たされています。

今回の特集では、伊吹山が直面している課題と、その課題を解決するため、市や協力団体が取り組んでいる「伊吹山植生復元プロジェクト」についてご紹介します。

かつては花と緑に覆われていた伊吹山ですが、現在は斜面の裸地化が進んでいます。

この根本的な原因は、地球温暖化による豪雨の増加とニホンジカの食害によるものだと考えられています。ニホンジカは、地球温暖化の影響等で年々その個体数を増やし、伊吹山では現在、本来の適正な生息数の6倍から20倍ものニホンジカが生息しているとされています。

増えすぎたシカが伊吹山の植物を食べ尽くし、裸地化した斜面が保水力を失った結果、土砂流出が進み、2023年7月に発生した集中豪雨発生以降斜面が崩落し、現在も麓からの登山ができなくなっています。また、今年7月には、保水力を失った斜面上部に降った雨水が勝山谷川へ流れ込み、勝山谷川で発生した土石流と一体となって麓の集落を襲い、大きな被害が発生しました。



今年7月に伊吹地先で発生した土砂災害



2004年の南側斜面



2024年の南側斜面

このような状況の中、市では県や企業、自然保護団体等と連携し、かつての美しい伊吹山を取り戻すため、「伊吹山植生復元プロジェクト」として様々な取り組みを進めています。このプロジェクトでは、動物、植物、そして人の最適なバランスの保持を目指し、大きく3つのアクションを軸に活動を行っています。